

Fresh Talk

～ フレッシュトーク ～

雄武町卓球協会（エレッズ雄武）所属
雄武町立雄武中学校おの　しいな　　ながさわ　るい
小野　詩菜　さん・長澤　琉生　さん
(2年生)　　　　　(1年生)

今 回取材に応じてくれたのは、雄武町卓球協会に所属する雄武中学校の長澤琉生さん（中学1年）と小野詩菜さん（中学2年）です。

9月5日(土)から6日(日)に北ガスアリーナ札幌46（中央体育館）で開催された北海道卓球選手権大会（カデットの部）兼全日本卓球選手権大会（カデットの部）北海道予選大会では、長澤さんが13歳以下男子シングルスでベスト8に入り、代表決定戦を勝ち抜き、小野さんは14歳以下女子シングルスで第3位となりました。

二人はともに卓球歴6年。長澤さんは従兄弟、小野さんは姉と母の影響で卓球を始めました。これまで「一緒に全国大会に行こう」と練習を重ねてきた二人が、今回そろって全国への切符を手にしました。

予選大会について、長澤さんは「得意なラリーで勝負できるよう、従兄弟や大學生にも練習を手伝ってもらい、今大会に臨みました。ベスト4に入ってストリートで全国を決めたかったですが、流れにうまく乗れず、ベスト8からの代表決定戦でなんとか勝ち抜くことができ、無事全国に行けてよかったです」と振り返り、小野さんは「初めて全国にいけるのでも嬉しいですね。この大会にかけていて、遠征もたくさんしました。新しいサーブも身につけ、試合中に手ごたえがあり、練習の成果が実ったと感じています。試合前には、練習を支えてくれた先生や母からの応援メッセージを確認し、自分を勇気づけました」と笑顔で話してくれました。

コーチの山崎千春さんは、長澤さんについて「小学4年生の頃からずっと全国の舞台に立ち続けています。周りから『打倒・長澤』と言われていた中でも、プレッシャーに負けず頑張っていました」と話し、小野さんについては「いつも全国まであと一歩でしたが、今回は実力と努力で勝ち取りました。有言実行できる頑張り屋さんです」と話します。

11月6日(金)から8日(日)まで群馬県高崎アリーナで開催される全国大会『JOCジュニアオリンピックカップ2026年全日本卓球選手権大会（カデットの部）』に向け、長澤さんは「まずは1勝したいです」と目標を掲げ、小野さんは「自分よりも上の選手がいる中でも、自分らしいプレーで頑張りたいです」と意気込んでいました。

二人の全国大会での活躍に期待です。



❖編集後記

Editor's note

▼朝晩の冷え込みが少しずつ厳しくなり、季節の変化を感じるようになりました。今年も残すところあと3か月。時間が過ぎるのは早いものです。年末になって慌てることのないよう、今のうちから少しずつ身の回りのことを片付けていきたいと思います。（舘田）